



北越公用記録

徳川氏  
地方役儀心得

全

73  
3345  
7



3 係 7 門  
3345  
卷 7



入部并村に見分る事

穀友早以早治氏遺愛之記

一 河料私領する限り村と支配する役人の分別は是れ道  
きりより一た地方の事を委ねて不知に成かす  
地方の行要より百姓困窮せしむる連て取置  
はのりし給ふに制を切者より先んず村法取の村の  
存せし取置事大法也總吏取置多るる面相取置  
事の中より取置事又委ねては此事より高き用は時  
を以て細成置事一難成りて事入事しと取置事

一 所々々々 拾遺一丁五ヶ条

一 田畑と中下路と区別并永荒引方事

一 是の羊貢五綱五増と不及之拾遺一丁也是月荒引記

一 田畑新起示明細を記載付外、少くも石限を旨

一 真去文言としての忠告

一 石盛人分取事

一 是の上方杯屋舟一取不及之石盛といふ事

引合

一 本年成算松年成算取算自前取回屋舟及定事是

一 之端の成算考り各苗取を極むる事

一 家別一卒舟取算并水呑事

一 是の事考り入る地物各別を以て羊貢一度に改め

一 増減を見知事

一 一戸内男女下人並羊牛馬の数右行取

一 馬羊と揚新場を量付村中入合、世に何事何程

一 何事持とく、何程他何村入合、何事何程

明細なる取事

是前考考之入材之善悪と云々之入材百姓野  
備杯之時分合取事

公儀林御留河未目道河程也

是「榎橋川除之可河之入材」又用之善悪  
并事

小物成羊貢事

堤河程川除道橋也此地小羊善信場

大立馬換行人羊之取事

是「沙公用」所取事

寺社何所新除地羊貢地

是「是」善信先親取事

成る分付事

他事者作中他事

是「百姓」取事

右「分」目「善」悪「取」事

其及教相行と化しりけり事 南村の方 園  
府より道は来 近江に在る事 取事しりて  
下を流廻りて懐面遠く切に言ふ也

一 所村赤土の時足指あり 勿落りて此村の字懸百姓  
と盛衰物見し 能仕事定りし法を心も  
たきしは惟も如地只六ヶ家取地取て取取羊負  
強弱りて之一意に知者地立毛石庭百石後  
此村の百姓清り又高取りて此村の百姓豊成り取り

一 次く百石豊成りて之を云ふ 自ら支取り  
盛るとも引取らるる事也 然るに角百姓盛  
表し海に之のあり

一 百姓富貴成りては穀の種を村に流し 家も  
さきも盛るる 而も此の公事 海内た  
き事の伏神と盛昌 諸勸進罪人出入り  
なり 事外に村は是もたし

一 村角に身神と百姓一丈人より 海を公後人に去

家申事考福やうなる或見やうは共村申ふふかき  
やふふ少也其上彼くく此百姓自作國無社なる  
見やうおのつくく上くといふは右取をく連く  
ほのやれも材もく振百姓も取く相付く連く  
て遊然くく其く又彼くく者之座安くく  
公役人やくく治りの若く居く振百姓切くはく色  
彼是難振く及者や

一 村く大法く東西く長く家屋の高く田地を横北く

心く馬羊新く取上くくを宵くくをく  
一 國東方相方水能くく年貢安くく作種く  
右張くく名く村あくく田方田名相方六百石程く  
取百姓勝くく田方村く百姓の爲意安かり  
又く方田の年貢下免あくく此相多く村百姓  
勝手意安田多き村くく是く方と國東遠く也  
一 土目の音意を多魚くく春のん分秋の作を考秋  
の此分遠作を量知くく事く玉同然石知く石成



小つる大岡換の二百六拾歩を今換と今を改刻  
うけいさよと右と通天正と繩二百歩の繩を今中  
母と今其時代六尺五寸五分の繩と二百歩の左  
得る今の間を直メと今及二百六拾歩歩小つて一割  
七卜余のよかけや

一 永言の永及歩石知水帳の永何千丈誰何百丈誰と  
中まよとる及歩石——是と換他の所も今も通及歩  
と舟上中下の位も舟丈この永盛を一筆毎

舟の清水帳も及歩石知水帳の中へ記置か今も  
舟も不知也永言の貫文石も——と歩石也昔も  
永を電てこの用たる右の貫の丸をとり取永を  
と貫文を記石の中へ用たる定免也然るを近年  
と古繩のゆるき換ととと増年貫成り今も又定  
年と依との換極ととと今も年ととと  
歩を足すは才と右の舟と永もと右と通と繩と  
及歩と水盛ととと



一 馬車取場を以て其村の額——多し少しを以て額——  
て多し自由なり身を取扱く金銀不介——を以て——と  
入部額多し——又其取場を以て村に馬車取場——と  
之自中より金銀を以て——此精を求む得る所——と  
之得る此額す——なり

一 男女の世を以て——を以て——其村に金銀合後扱を以  
て考切せしむ——と此中を以て——其村に金銀を以て  
所——其世を用治せしむ——と此中を以て——其村に金銀を以て

と此中を以て——其村に金銀を以て——其村に金銀を以て  
石橋の世を以て——其村に金銀を以て——其村に金銀を以て  
海客の世を以て——其村に金銀を以て——其村に金銀を以て  
布衣の世を以て——其村に金銀を以て——其村に金銀を以て  
和服の世を以て——其村に金銀を以て——其村に金銀を以て  
然るに其世を以て——其村に金銀を以て——其村に金銀を以て  
と其世を以て——其村に金銀を以て——其村に金銀を以て  
此世を以て——其村に金銀を以て——其村に金銀を以て  
此世を以て——其村に金銀を以て——其村に金銀を以て



或は必年数に切定免いし其末の太新に取違  
以約成る新田託する事と其末より免す  
一 相成田と改田時三年の年貢を相成る相年貢  
を四年目の相を引ぬる田の年貢は取違大法也  
を田に取違と改田すは諸事

一 田より取違し石河原より水よりとすは  
能田より取違し地深くは改むる免す  
事石河原の相成る事と林より取違る事

土目を分て土目年貢の相を任す意成る相  
と改むる也

一 居る者地性より去る者又時相の改むる事  
す事と改むる事と改むる事との也  
居る者と改むる事と改むる事との也  
一 改むる事と改むる事との也  
改むる事との也  
改むる事との也  
改むる事との也

城一と云ふ下相の揚を扇かす所一の丸形を爲す  
方と云ふは石城年貢結り多く成相古所安  
祿布幣ハ大いなる如き一物を百姓の商會普  
清新多し多し一若殿中り安海を末に潤は法と  
ぬるや爲漁くす人一神文山に據芝方の糸  
糸を糸の爲安下ぬき布の安法を田化すす  
と云ふ及云結構如きの如

一 水不足ナリ一日換りもの材極く他々愛水

と云ふ及云結構如きの如

のすし水は年々と増し拾水もさうり勢化と出  
いそ如く影極く是是を所又洞極くす出水もさうり  
溜化と云ふ是日七りの所を溜水を一五二五くおいと  
なりしと云ふ大利を好むもの也併溜池社主といふ水斗  
くそく用きたたといふ是社ハ水サツくは年々出水もさうり日照  
の時を方々水不出揚布の溜池はくくく益を  
兼日照く水もさうり出る揚布を具金魚一蛇更  
大分日月換りすしと云ふ溜池はくくく復不



一 水換場を水の入取を以て或る堤を築きて水  
を引けりて然るに又是れ水を引けりて水溜  
を以て水門を以て是れ水溜を以て水門を以て  
引く事にして其水溜を以て水溜を以て水溜  
地帯に於て水溜を以て水溜を以て水溜  
以て水溜を以て水溜を以て水溜

一 惣て是れ水溜を以て水溜を以て水溜  
以て水溜を以て水溜を以て水溜

一 水換場を以て水溜を以て水溜を以て水溜  
以て水溜を以て水溜を以て水溜

一 田畑に於て水溜を以て水溜を以て水溜  
以て水溜を以て水溜を以て水溜

河相成りしをたし田相ありしに大申途のかこひ成り  
 若又小水合の柳の花あり内流名流りまぬ而も礼祀  
 とおをりつたまたり也お也ま如時柳をすしん——  
 一 右通水流のをする田相お慮より申一下の位を府存燈  
 をめりて月をそあ、水流引く内流成るまの事か也

一 村中合の時ふいさしん——申入合の場をすしんれ  
 かち不意の根を根を流本もあ立公用私用より名を計  
 ありしを一人百姓松和り——と博七家申し事な根

ありしをきり変しする左ゆめありしつ而も百姓分限まら  
 流し境を立割持しんを山林とて仕多人は後集も枝  
 赤影、用常、復法となり事をも階のすき茶舟しん  
 こそし刈しは揚りし——申本も大い流もて産能本  
 ぶたりしはあ、能り事多産流系——をいほひまらり  
 まらしを割持すすしん也

一 百姓いし申、我振玉事申すはわ家いし名も仁君  
 一しんこの屋敷なりし飛りし申、我振玉事申すは家

一 何方より能くお救ふらばつゝまゝのしりしは結末は  
あつた村をなすは成程をあらひりしは一日にわつた書  
振に在也

一 名をきは成程の如くひてまゝに——と申すのま書  
こもちお赤いせんきたら及也程き夫の根らゆ各は村に  
害を成をいり也申す上戸は公用由るに隨て汝等ははひ  
て村に後人入込の時にもや各合の長合も香の書  
をの根也申す上戸流も程費多し——とあるた小田舎

序より上戸をいりのよはて彼各の上戸を以て得て酒費を  
事一縣の安小田村上戸を吾た物としをいり得ては各戸を  
らり各々のいりしは酒の已る香の書——と人をもた  
とほや上戸の村に何方にも必之ん成るのや書  
二の書より先は文讀よりけり又内流可自今書心  
よも得ては百姓の書りしを指とていりしは是れ其  
踏白書なるも本を以てし人をもたを——といたとて  
也百姓は身持能くもはつて耕能いり——とある也



身位に於て地ノ事を曰ハテ次小致持心法斗を考テ下  
多々秘成りものを以テテテ村中ノありき加ヘテ亦三  
ノ公事ノ事ヲ申スルもの各々申シ出入り絶テ事ノ負テテ  
揚テテ村ノ費ノ御事ナリ。他所他村ノあり且  
之後行ハク小おもき事加年中際をテテ大々金限  
物ノありきテ村中を大々申シ中入リノ表向ハ身補  
能進テテ内院ニ備テテテテテテテテテテテテテテ  
揚テテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ

と末ををさせ及ん次第之中五節を。惣を持りさ  
者。村中悔き。このと致我ら。この名。の云事を  
有。後。六百。母。才。之。信。の。仕。を。出。り。き。年。の。出。り。也。

検見ノ事

一 大検見を村に他。惣。交。方。信。を。引。也。年。の。信。  
所。あり。云。年。の。信。何。程。去。年。の。何。程。の。物。お。り  
ん。り。初。め。の。信。を。引。也。六百。母。才。の。信。を。引。也。  
この。年。の。信。を。引。也。先。に。引。也。村。の。信。

何れも人申す事と云ふは、積り何分我地積り分  
 と年貢と積りて小積見は換毛何れと云と考引  
 を友と右と年貢積を載之は積分也是を以  
 去年の積分何れより下り我積も也其積も立  
 毛を以て志すされは難成ん事也地積は坪刈  
 一とて分人毛を坪と積を以て反を辨と反を辨中  
 と積りの坪刈者大事に反を坪刈を辨中  
 以て坪を仕と事ある下り一反と内毛を以て

此ののたふし也

一 地積廻田の事一の積力半と出来たり田の積一  
 の之の事と云ふ事一地積より田の積事者其を以て積  
 先考より下りて小出年積之は事と云ふ積も  
 二反よりめんより田積り能積先地へ積分と一と積  
 毛を以て積りて積りて少の積分を以て積り  
 積分一と積分廻田積りて積りて積りて積りて  
 又田積分積りて積りて積分一と積りて積りて

や〜ある病せいの浪の中〜札〜やすもの也

一 出芽おちき〜やう〜く〜植田より府田に〜  
あ〜府田の町〜植田に〜  
〜やつ〜田〜植田の植〜  
〜切〜は〜

植田の府田あり〜植〜出芽〜  
〜付〜割〜植田す〜  
〜  
〜

ふ〜す〜植田と府田に夜更の石分〜  
〜  
〜

一 小検入仕指の植〜十〜七〜毛は換  
〜毛〜  
活め既換え也又を傷不切た〜村〜  
〜  
官の面〜  
安及び控々也是皆切〜

成仕極多り

一 小撥えん柄申の面地一枚くふふ残書と為汲汲  
五毛見合る上田の何程も毛申同の何程も田の何程の毛  
と受更し引合指し合引しをきり是れ皆を仕極多  
るは田の何程引し出さず是れ見許客方主を又此を  
左割の二割とゆふ人と書付申右と海りて即定分  
右の割と右引をきり又此を左割申右合毛  
くはんふりて書付申後と即定分申上田を

左来毛中の九合申の八合柄と五毛を撥申て又よ  
引合指し合引を毛申合三度と内は何合毛と見  
るに違ふるもあは

一 畝引の撥えん為受ともは撥見を培る方も多  
是れ上田上毛中の毛申し毛申下田を適五版の毛  
採をしと然る及左を育るあり付仕極の上立方柄の層  
をくふりてはけく及左及右の柄を用るなり是れ  
二及る上毛申下毛をば役今申申て育るとも又

方よりんかそを凌ぐ一とくそ百姓神文中有毛掛  
とくそそそと後主帳を以神言つんか出何事  
田位毛位はれはれ帳今言そのめんか  
何方言ぬ大坪刈とてそ文をぬとて云と官庵あり  
物言子と毛と書有是事と示成て田言将法子言  
村中物ぬぬのし流成行西言にんは積なり

一  
小族下と毛中二つ所限て田と度候とてんて度  
田と毛得て少く刈候て田と毛も魚か多くす

刈也田の面成しんそん何故歩けん今し事見  
あたらふしよとそなり

一  
田も種も存有本綿成り羊林仕有とて事とて年  
田損場をとり流相物仕有は林と海沿と云とも  
むきと畝外不て本綿なりと由東は増も希も水勢  
と年とよとそとそ田作とよとそとそとそ  
方すとも材もそ文信の夫名を流とて付は夏並翌  
年と田化を別めり流地事とて言江別ありとて

大官よりしを以て年二度小務をせし人皇を此地  
中を治す也 大官田一版よりの地

一 畑方、行能を他方とせ、終、初量と云え他方、作  
地より下を麦、何道の村を以て大方畑海、能方の香り  
他方、恵化、久大、麦、不出、少、麦、能り、なり、少、麦、  
多、麦、す、あ、り、の、り、大、恵、化、大、麦、の、り、多、麦、  
を、能、り、恵、化、の、り、多、麦、の、り、多、麦、の、り

一 畑方より作も麻首、恵化、綿也、何、今、子、麻、の、地、去、麻

蘇州、安、守、り、し、き、り、也、一、馬、屋、の、こ、い、大、系、大  
り、人、村、の、り、村、に、作、り、多、り、難、所、の、り、綿、の、り、  
その、こ、い、り、の、り、綿、の、り、灰、を、も、他、也、他、も、恵、化、  
あ、り、り、上、系、採、り、あ、り、の、り、せ、り、せ、り、の、り、  
一 中、作、向、年、大、根、大、豆、系、系、也、年、の、り、  
去、去、馬、の、り、の、り、作、り、百、源、能、あ、り、り、  
たり、方、補、り、も、根、系、系、系、に、能、り、の、り、  
一 中、の、り、文、能、り、の、り、地、系、系、一、系、系、の、り、

目しをくくつて作りたる葉大根は地を深く掘りて  
掘るるより中一とて作りし能く根多きたふよき  
ま喰ふとて今もやさい酒法の也

一 中作小豆小角豆在りふふ一葉若葉此類なり  
小豆小角豆沖在り中一とて入地方より掘りて  
作也すき物に用たり其く中一をさけ其く中一の  
よとに作りさるるそのみ脚小なる葉をばも好し  
行根は砂地より作りしをあらうとていふ

一 ころもつて作りたる一葉の作也

一 かんきりや葉根は作りしにふふ今葉のたより根  
らんや中一の方の中一とて入り地より掘りて葉根  
も好むるより中一とてふふ今葉のたより根  
あきとりのふふ定也此二色に作りし作りしにあら  
ゆふ方を條にふふ

一 飛茄子種をせうり人参種をたすしの類は人を食ふに  
よのこがゆえりし子種は作りしとて多し其他はたす

又何處の玉りをして城下村の高敷を築きとて作りての  
即ちとて城なり

地村見分

- 一 城へ入部せし是より南の地形のより下より城を築き  
川より川下より南の地形のより下より
- 一 東より西なりは地は早稲田なり又西より東下  
り地は早稲田なり又北より南なり地は早稲田  
上作なり又南より北なりは早稲田なり

一 用水より西水の出口自由地なりは地は早稲田なり  
初

一 南人の村なり又代もとも村は早稲田なりは地は早稲田  
上田なりは地は早稲田なりは地は早稲田の村なり  
は地は早稲田なり

一 春の冬の旅のをりて去年の作も考秋の冬の旅  
は地は早稲田なり

一 寺社の地は早稲田なりは地は早稲田なりは地は早稲田なり



月急は住居或る又佛神の二所供を乞ふ事あり也

一 田畑を乞ふ事ある商の申度と云く然るの事類なる也

新記

一 田圃田新の村より送原島家又信人のたらしむ事

と也

一 富貴人の命は清和進より富貴村中ま歸

のいふ事あり

一 毛皮の事なる事名羊の事なる或る事なるの事ありと云

毛名羊代りたる是類何所代り云田の上中より依り石

代古遠より常より成成なり百廿年より成成納而して能也

一 古壯性の音急より古常より沼田の地より激流より主

事の上野より下りし一知山石より一知山同

一 志去小山石交り上田に地力をもり又上中より去小山石より

より目より下りぬまより地はまよりなる事あり

味者なり又山石交りくも移るなり

中地萬の苗は植る事あり又小山石より去とあり

つらね地世地いふあを川まゝあく日ホチー原ゆふら  
との国く下ありふあま山石交りの地いこしーくま  
このたうり

一 白木上田地は内子又あまを福ちり能日し強く其  
公能い上地也作木と使生す木の枝がーあ教  
て科多の味能又福ちりあく日まけちりまあふ  
まらちり

一 黒ままいあまを志あまを成上地とす一切の事あま

て候しあ教あまーしを味し井あ力能さーあま  
入給し節方吟味し事

一 城内城下の要要あまの可船を津出村傳道道の  
地願たはのま近川和あまの細う後あま  
公候あまあまの自然あまをさあまあまあまあま  
あま

一 あまあまあまあまあまあまあまあまあまあま  
あまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

一 村々より公使の御札場へ来たはいつと又、栗石垣也  
 何と被換致りしよりよしく仕立へし角、所従の格  
 古くは切、新装仕立、帯、きれい、小、段、不、持、除  
 され、い、な、き、し、ま、さ、の、也、中、札、古、い、文、字、も、又、品、得、を  
 以、名、義、御、法、で、出、世、事、し、し、り、を、死

一 河原場、河原、場、の、性、還、の、付、馬、場、死、又、市、連、宗、  
 能、い、岩、味、仕、修、送、仕、を、い、く、の、役、人、能、事、も、各、年、々、月

一 村々、浦、上、中、下、段、ん、を、も、り、也、材、を、て、三、年、々、五、年、

以、身、の、免、相、極、の、元、文、三、字、以、事、

一 田、畑、上、中、下、七、段、友、敵、を、仕、分、前、に、目、録、を、な、す、

一 男、女、人、別、改、半、馬、を、明、細、も、大、小、の、口、数、を、帳、に、月、立

一 改、し、を、帳、面、に、改、す、

一 何、拾、石、名、何、事、何、米、袋、  
 何、石、名、

人、数、何、十、人

何、石、名、

女、店

年、改、格

年、改、格

男子

右而年拾五

同

左而年十二

始博志

年九歲

如久

年七歲

下市彦

年五拾壹代

日仁藏

年三拾年事

日之助

年廿五一年事

古女たけ

年廿五漢代

日多り

年廿年事

日かぬ

年十八一年事

石くお始主人何村作少縁丹

馬二丈

牛壹疋

家口内

居屋 掃屋

樹木

三つ久 松 榎 桑 萩

右通明細より段百母より諸蔵人よりとるべき

多細要此工二月少初候存重なる加以後大工の程を  
得たる事 なる也

一 其所に是の上候仕立至海軍事

田畑土 中下 海川 山林 萱花 竹木 桑刈如  
杉木 高直木 枿木 雜木 土重 山崖 米 酒  
物之類 賣出亦 紙 襦袢 漆 油 茶種 白出 箔  
細綿 中綿 麻 芥 炭 薪 糞 糞 糞 糞  
材 極 惣 萬 葉 子 矣 多 塩 干 物 亦 賣 出 所

此分野 葦 葉 徒 芝 の 穀 織 出 所

右ノ類 至 其 亦 下 至 高 直 木  
此ノ様子 仕立 欠 相 極 の 市 之 用 事 大 先 年 より  
右ノ月 候 成 止 百 姓 の ため 仕 事 一 年 一 回 男 女  
仕 事 中 以 候 者 下 地 也 又 賣 拂 石 掃 子 の 亦 是 又  
其 中 海 軍 事

飛 込 大 工 巾 袂 船 大 工 舟 倉 墨 豆 瓦 瓦 縁  
刷 込 洞 倉 檜 倉 絆 倉 漆 桶 所 惣 務 人 等

商人権原惣人

右に数事改帳にて任事差度又是亦も商人を重んず  
不自由なると其節に記す

寺社 山伏 僧徒 結末 変社人 所子

と云

右より類其新し余力に海世も少を不記

一 級令に五万石の傷に百石村と云ふと五級程を計り其  
と程に門の年行事持の店を月行事持の店を

一 商人今更昔定る其年の及別の作毛を以て村右  
商人の者も入札の由也云々云々引合に引合の帳紙  
極く毎月行事持商人村に諸事一筋きなりとの  
ため成る

一 知行方主紀云々一り者百此かの進出金銀並銭系  
於一切停止云々一葉方根の紙樹木の葉子書  
かきまゝに紙葉たると紙紙渡すとの小者山鳥一葉  
葉の葉の叶の葉書かきまゝに事紙係りまゝに紙

百姓をのくやあつとされし諸事の首意我知かく  
 又正とせよとて御もあはせ置必は後人の事をいそむ  
 多物成諸事自然とまじしとてしとて箱の返報  
 をすまふとて言事いふ事 言事いふ事 夫と  
 多物成諸事入るるに依りたまはるる海をみりて忘  
 成成人の諸事を治すれども初級深きは子思事  
 いふ事 言事いふ事 夫と表裏の如し  
 一 代金方と首領事 帝の御務を治りて月とまじり

也とて先教事の如く初めいふ可き事也  
 時言

一 言或る石籠の村とて他町の仕立と後と追告の御  
 事と諸事と費多しとて百姓の疲る所也此の  
 如く初めいふ事其五人程中を治りて一と日初月  
 の節に言事御事と云ふ初めの者として集るる事  
 ありて初めの如くいふ事とていふ事多し  
 とていふ事とていふ事とていふ事





平野也石の時多し馬糞一斗極く多し也

一 右に平一人百姓の古物事より他力を加(耕作  
仕付させ下事)

一 麦作麦刈出芽以後麦蒔の年貢息分中納納不  
下月也一里集納約不ぬる年村あり秋如く  
可也麦相年貢七月以前三分一死又三分成在年貢  
依く云ふへ一麦の月全銀成相村と云ふ也  
夏刈以の年一秋あり延汗海と年貢小

拾遺言と云ふ近世の事多し一也也て因る作徳也細  
大徳分多し村あり也といふ

一 借入金借戻しと年貢皆減し希一切返亦仕り  
七月中旬各々年貢百世の元文改取山世の元  
文の石の方のりせ也事もさし又古く方改取  
札事書付村と云ふ事又若借貸不自由  
と云ふ事也西取た小不用人といふ事

一 八月細多初年貢中納納不後秋の初め



拾倍積りたる村に是れ元年と云ふ事既に又代  
のふ潤法に又記しる事計のたしむる又書法くし  
諸事一舞人多く左記何事と云ふも未進五年貢  
たふ事多し何れ此百姓あつてつとまことおえりて  
若くは老の形代も同法と云ふ月の形も復か五分  
と之分もつて未進の負教人をも自然毫の未進  
五年貢たふ事計に記す

一 新田のりとも記しる事計に記す

此の上載する事一二十年と云ふ者計に記す又  
つとま事不事と云ふ事一 新田のりとも記す  
一 是れも未進の事と云ふ事以後未進の事と云ふ  
く古事と云ふ事計に記す

一 刈田のりとも記す事計のこたえと云ふ事計に記す  
亦かたかたの事と云ふ事計に記す  
一 新田のりとも記す事計のこたえと云ふ事計に記す  
一 新田のりとも記す事計のこたえと云ふ事計に記す

一 務のままかくるを事行はし上作とす此下他の二年は  
のちのいさぎ致たまふとすも若也

一 ちや多人のまゝ他は上相といひあはるるは海老一層ん  
みらるるまゝしきん

一 換り仕出さるる百月ヶ又先陣のまゝに其家の新式戎装  
換り人の役人多し御定まらるるまゝに御しとす上お極  
一 一 但田相上申下七段の目録致しとす考は

一 八月申さるるまゝ家のまゝに石村と百姓方の 上校法交

と語つや外次はまゝ家中の仕立下付文をいそふも候  
あはるるまゝに諸事あはまらるるまゝに御し百姓あはるる  
持仕り候とす也

一 換見はまゝに内合御定法段の御命とまゝに御し可申  
あり

一 家中は御定海方御命お慮は後一 子くま申  
す也

一 采入更事御拂りつまゝに御し御定法段三方御定地

早し他亦の為成生合下也

一 諸網の諸洲仕年時分あまのりきひ〜まより下  
世禿さる事〜は是亦も名も能古蹟と上仕指  
てま乃去テ振る存有月水と未進〜例も名と振  
たて〜人申免る〜と形成のあ後〜上後保〜所成  
振るふのるまき也

一 吉村の月高貴人成者ま〜材中のたすけは成る事  
〜と〜又を利は申す〜すも事〜と〜と〜其者

借金を借〜田畑を借ある事〜是より  
〜物〜と〜好更〜と〜割合也也田畑の買あ〜  
〜と〜と〜り百姓の年貢と捨捨り借金仕り済し〜  
〜割の利は二割の借き〜と〜と〜と〜  
〜せり〜振〜者も代金の為のり〜と〜名も返戻せ〜  
〜割を二割と〜と〜〜借用済〜と〜  
代金の分持〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜  
〜と〜初秋と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜有徳成

百姓の代官の目に入せよとておこうとて思ふもあつたとい  
まふとていふをよせらるる也又いふもあつたとい  
指しその利金借りてしむ故おつたとい明かすとい  
この利の金子をといふ又人の借りてしむといふ田舎に  
候ふれい也

一 他方の借りてしむ人新り方と解りて田畑一ヶ年と  
も他方の借りてしむ人新り方と解りて田畑一ヶ年と  
もを新りてしむ人の借りてしむ人の借りてしむ人の借りてしむ

一 自他をていふ也然るも百姓の上は地をいふといふ自  
らに借りてしむ人の借りてしむ人の借りてしむ人の借りてしむ  
人もいふもあつたといふたといふ自らの借りてしむ人の借りてしむ  
人もいふもあつたといふたといふ自らの借りてしむ人の借りてしむ  
人もいふもあつたといふたといふ自らの借りてしむ人の借りてしむ  
人もいふもあつたといふたといふ自らの借りてしむ人の借りてしむ

一 他家の代官の目に入せよとておこうとて思ふもあつたとい  
まふとていふをよせらるる也又いふもあつたとい  
指しその利金借りてしむ故おつたとい明かすとい  
この利の金子をといふ又人の借りてしむといふ田舎に  
候ふれい也

すをかりあんと浮流す如くも一たりもあま  
事にかまらん皆欲遂つたかゝる者あるべきの  
先この世のよ能く分別す

一  
江戸をこの地をまき及んで永五貫七匁或は格支後の  
地もまきケ格と地をまき及んでわははまらるる  
草花の松竹の作りのま利流すまらるるま  
有永或三言又夜の地は白を作りのま神ありて  
金一あるは江戸を日神の首姓の存いありて流す

百諸ありたり也  
この地は又まき及んで作りのま材ありて  
まき及んでまき及んでまき及んでまき及んで  
の知りまき及んでまき及んでまき及んでまき及んで  
内まき及んでまき及んでまき及んでまき及んで  
彼の無りもまき及んでまき及んでまき及んでまき及んで  
まき及んでまき及んでまき及んでまき及んで  
まきの動本仕まき及んでまき及んでまき及んでまき及んで

これに教をまじりて可考とす

一 江戸が湖に二三町六七里程とあるところを以て其の  
海を荒花山島勿論りて畑を以て新穀の出入り  
地なり

中老 山のいし せうり ちやうり ぬき 之を

牛房 福ふか

江戸の地を以て作りて地をす換て害を免れ  
せりて其の事一極の地を以て作りて其の事一

たそくともいふ極の地を以て作りて其の事一  
かりに地を以て作りて其の事一  
の事一

一 関東の地形は其の田に常は苗を作りて水は  
南に下りて其の地を以て作りて其の事一  
河神と云ふ水は其の地を以て作りて其の事一  
ありて其の地を以て作りて其の事一  
さても今とて耕作して其の地を以て作りて其の事一



唯しゆく、英濃尾張、桑田相し、とて、正金、と書きたり  
上采、今、あつた作、り、由、也、自然、う、は、う、相、と、事、も、可、也  
病、の、例、あ、ま、も、一、魚、人、も、あ、ま、も、あ、ま、も、あ、ま、も、あ、ま、も、  
云、先、受、り、能、く、化、す、と、も、有、能、と、も、云、は、り、を、世、に  
愛、も、あ、ま、も、す、と、も、あ、ま、も、

一 夏、別、と、て、ま、人、百、姓、と、も、年、古、故、老、と、相、と、あ、ま、も、  
形、お、相、と、て、二、月、の、末、と、受、と、ま、も、是、何、と、程  
程、定、ま、り、と、も、を、新、あ、ま、も、と、も、又、田、の、二、年、と、も、

汝、等、と、り、お、り、い、の、か、実、入、能、く、能、く、お、あ、ま、も、何、訓、お、り、と  
少、く、実、入、り、也、然、別、と、書、代、り、は、何、を、前、り、九、書、と、も、  
如、ま、し、き、一、魚、人、り、別、と、書、代、り、馬、の、吏、官、又、田、相、の  
二、年、何、也、と、書、あ、ま、も、

一 正月、と、り、月、待、日、待、の、場、を、南、尾、の、ち、り、と、ま、り、と、  
双方、わ、り、と、り、お、り、お、り、お、り、お、り、お、り、お、り、お、り、お、り、  
を、夫、の、こ、も、り、以、暇、或、書、り、一、魚、人、と、書、代、り、二、月、を  
お、り、二、月、中、と、も、待、負、志、け、り、お、り、二、月、中、と、も、書、事、

お尋ねして一府の衆とあり耕地の時分は後におく  
き年貢ふきして不計海沼も隣々の者もよくも  
隙をうきけ板の仕立兼るも名及と板よりとも名を  
の眼城おの初に文子の小事の事よりとも長く  
後より大分の身成失なり事世より常く能く  
少せくをき事也

一 正月三日の夜式さうを縄をある儀を編造を蔵七日  
さうの農具の被換又小麦のさう改らるる田代(郷)

注の事往家の被換おう改二月に改りて田代か  
なすよ暇ちり事あるさい大方の改に正月申よ仕立終  
る一 正月に又堀並置ありともさうのものう水の中  
より水をさう

一 他場口の道路古くは度くは年と改る田代か  
此乃せさう牛馬の引遠子附にけおち作毛とさ  
換一 橋無きさう水人馬の是しおやう洋他毛  
換すものくた橋の被換さう無改りて中身是

地盤後の先達

一 和歌山川をこの者も出水の岸流すところ流物  
 茂動るいな事一と申用本も他既本も高貴本も文  
 ともか一本もその流を吹流す一又本より百  
 姓の動るの上げも本もその流を吹流す一又本より百  
 ともか一と申用本も他既本も高貴本も文  
 ともか一と申用本も他既本も高貴本も文  
 ともか一と申用本も他既本も高貴本も文  
 ともか一と申用本も他既本も高貴本も文

為の流物事一と申用本も他既本も高貴本も文  
 ともか一と申用本も他既本も高貴本も文

と申用本も他既本も高貴本も文  
 ともか一と申用本も他既本も高貴本も文

一 年後百姓をこの事法本も他既本も高貴本も文  
 ともか一と申用本も他既本も高貴本も文  
 ともか一と申用本も他既本も高貴本も文  
 ともか一と申用本も他既本も高貴本も文

作少波乃ま〜情入今〜世の薄さおのほ〜収細〜

〜ききき〜

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

